

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	国際人間学研究科
--------	----------

基準 1	理念・目的
------	-------

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0102	研究科（各専攻）の目的や人間像を示す媒体が学部段階と比較して限られているため、より効果的な周知方法（適切な媒体）を検討することが望まれる。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
研究科の広報媒体として、アカデミック広報誌『GLOCAL』を年2回発行しており、2018年10月発行のVol. 13より巻末に研究科の「教育研究上の目的」を記載している [0102a 裏表紙]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0101	【新学科・新専攻設置時のみ】 大学の基本理念・使命・教育目的を適切に設定していますか。また、それを踏まえ、学部・研究科の教育研究上の目的を適切に設定していますか。	自己評価	
評価の視点	(2)学部（学科）・研究科（専攻）の教育研究上の目的は、教育組織の特色を明確にしたものですか。 (3)学部（学科）・研究科（専攻）の育成する人間像は、明確ですか。 (4)学部（学科）・研究科（専攻）の教育研究上の目的と大学の基本理念・使命・教育目的は、関連性がありますか。			
現状説明				
対象年度内において、新たな専攻は設置していない。				

自己点検・評価項目	0102	大学の基本理念・使命・教育目的および学部・研究科の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員および学生に周知し、社会に対して公表していますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)学部（学科）・研究科（専攻）の教育研究上の目的や人間像は、適切な媒体を使って明示していますか。 ・明示媒体（例えば学生便覧やWebサイトなど）間の記述の統一 (2)刊行物、Webサイト等により大学の基本理念・使命・教育目的、学部・研究科の教育研究上の目的等を周知・公表していますか。 ・学生・教職員への周知 ・社会に対しての公表			

現状説明
<p>研究科および各専攻の教育研究上の目的を大学 HP や学生便覧で周知している [0102b][0102c p. ③]。 これに加えて、年 2 回発行している研究科のアカデミック広報誌『GLOCAL』の巻末に研究科の教育研究上の目的および各専攻の開講科目を記載し、近隣大学を中心に 100 部程度を送付している [0102a 裏表紙] [0102d]。 2020 年度の自己点検・評価の際に、大学 HP の「教育研究上の目的」に日本語として不適切な表現（「人文系諸科学と社会系諸科学に架橋をかけて」）が見られたので、適切な表現（「人文系諸科学と社会系諸科学に架橋して」）に改めたが、学生便覧及び『GLOCAL』の修正が伴っていない [0102b] [0102c p. ③] [0102a 裏表紙]。</p>

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0102	アカデミック広報誌『GLOCAL』への教育研究上の目的の明示 [0102a 裏表紙]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0102	教育研究上の目的が明示されている媒体間（大学 HP、学生便覧、『GLOCAL』）の表現の統一
今後の改善・向上方策	
<p>広報媒体によって教育研究上の目的に関する表現が統一されていない箇所があるので、教務委員会での変更手続きを経て、大学 HP の表現に合わせて学生便覧、GLOCAL の校正等の際に表現を統一する。</p>	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0102	大学 HP における教育研究上の目的の公表方法が外部から見て適切であるかの検討が必要。
今後の改善・向上方策	
<p>大学 HP に掲載されている研究科の教育研究上の目的などが、外部からみて見つけやすく、また理解しやすいかどうかを検討する。</p>	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
レビューなし
長所・特色
留意点
<p>*各項目に留意点レベルを記入</p> <p>【A】・・・緊急の改善を要する事項</p> <p>【B】・・・検討を要する事項</p>

--

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	国際人間学研究科
--------	----------

基準 2	内部質保証
------	-------

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項 <input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0203	外部評価を恒常的に取り入れる試みの検討
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
研究科として外部評価を恒常的に取り入れることについては、2020年度のピアレビュー報告書（案）において指摘を受けていたが、本研究科としては、ピアレビューに加えてさらに外部評価を取り入れる必要性を感じていないとの理由で削除を求めたことを2020年度第4回研究科委員会（2020年7月22日）で報告した [0203a]。最終的に当該指摘事項は削除された [0203b]。	

<input type="checkbox"/> 課題事項 <input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0203	内部質保証は、自己点検・評価や外部評価を実施し、それをもとにPDCAサイクルを回す仕組みを組織内に構築することが基本である。専攻主任連絡会が自己点検・評価委員会の機能を兼ねていることは確認できるが、専攻主任連絡会にその機能についての規定が確認できない。自己点検・評価に関する組織における位置づけを明確にする必要がある。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
2020年度のピアレビュー結果を受け、自己点検・評価に関する組織における位置づけを明確にするため、2020年度第5回専攻主任連絡会（2020年9月15日）での検討を経て、第5回研究科委員会（2020年9月23日）で「国際人間学研究科自己点検・評価委員会内規」を審議し、制定した [0203c] [0203d] [0203e]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0203	方針および手続きに基づき、内部質保証システムは有効に機能していますか。	自己評価	B
評価の視点	(5)外部評価を自己点検・評価に取り入れていますか。 ・学内のピアレビューは含まない			
現状説明				

大学基準協会から指摘を受けた大学院の定員充足率の改善に向けた取り組みについて、本研究科のワーキング委員2名を中心にたたき台を作成し、専攻主任連絡会で検討した内容を研究科委員会で報告した [0203f] [0203g] [0203h]。歴史学・地理学専攻では、同一専攻において歴史学と地理学の2つの異なる学位を授与しているが、それぞれの学位に対応したDPを設定し公表しているものの、記載方法が不十分であるとの指摘を2021年度第3回自己点検・評価委員会(2022年2月15日)で受けていたが、2022年度末現在、改善できていない [0203i] [0102c pp. ㉔-㉕] [0203j] [0203k]。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0203	大学院定員充足率改善検討委員会 WG 委員の2名が中心となって検討を進めている [0203l]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み(予定)および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0203	歴史学・地理学専攻のDPの記載方法の見直し
今後の改善・向上方策	
歴史学と地理学の2つの学位に対応したDPとなるよう専攻内で見直し案を作成し、専攻主任連絡会で検討する。これを研究科委員会において審議したうえで教務委員会に諮り、外部に公表する [0203j] [0102c pp. ㉔-㉕]。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
レビューなし	
長所・特色	
留意点	
*各項目に留意点レベルを記入	
	【A】・・・緊急の改善を要する事項
	【B】・・・検討を要する事項

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
 ●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
 △：現部署で保管

2023 年度 自己点検・評価シート

自己評価組織 国際人間学研究科

基準 4 教育課程・学習成果 (1)

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☑ 課題事項	☑ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0403	教員の個別指導状況を各専攻だけでなく、研究科全体で共有する必要がある。 研究科として体系的な教育課程の編成・実施を確保するため、教員の個別指導状況について専攻間でのさらなる組織的な連携が望まれる。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
院生の研究報告会「院生の力」を研究科全体で開催しており、その際に院生の発表に対して指導教員がコメントする形式を取ることで、専攻を越えて教員間で指導状況と研究の進捗状況を共有している [0102a p.9] [0403d]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んでいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0401	授与する学位ごとに、学位授与の方針（DP）を定めて、公表していますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)授与する学位ごとに、当該学位にふさわしい学習成果（課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等）を明示した DP を適切に設定していますか。 (2)授与する学位ごとに、DP を社会に対して公表していますか。			
現状説明	博士前期課程・後期課程とも、専攻ごとの特色を明示した明確な DP を設定し、大学 HP で公表している[0203i]。 2021 年度第 8 回専攻主任連絡会のメール審議（2021 年 12 月 14 日から 16 日）により、国際人間学研究科学位審査基準内規の改正案ならびに各専攻の 2023 年度からの DP の変更について了承された [0403a]。2021 年度第 8 回研究科委員会（2022 年 1 月 26 日）において、研究科の学位審査基準内規の見直しに伴う 2022 年度からの研究科の DP の変更と併せて報告した [0403b] [0403c]。 研究科の DP の変更に伴って 2022 年度学生便覧は修正されているが、Web サイトは更新されておらず適切に公表できているとは言えない [0102c] [0203i]。 歴史学・地理学専攻では、同一専攻において歴史学と地理学の 2 つの異なる学位を授与しているが、それぞれの学位に対応した DP を設定し公表してはいるものの、記載方法が不十分であるとの指摘を 2021 年度第 3 回自己点検・評価委員会（2022 年 2 月 15 日）で受けていたが、2022 年度未現在、改善できていない [0102c pp. ㉔-㉕] [0203i] [0203j] [0203k]。			

自己点検・評価項目	0402	授与する学位ごとに、教育課程編成・実施の方針（CP）を定めて、公表していますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)授与する学位ごとに、教育課程の体系、教育内容を備えた CP を設定していますか。 (2)授与する学位ごとに、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を備えた CP を設定していますか。 (3)授与する学位ごとに、CP を社会に対して公表していますか。 (4)CP と DP の関連性は適切ですか。 ・ CP と DP の整合性			
現状説明				
博士前期課程・後期課程とも、専攻ごとの特色を明示した明確な CP を設定し、大学 HP で公表している[0203i]。 2021 年度第 8 回専攻主任連絡会のメール審議（2021 年 12 月 14 日から 16 日）により、DP の変更に合わせて言語文化専攻および心理学専攻の CP の変更が了承された [0403a]。2021 年度第 8 回研究科委員会（2022 年 1 月 26 日）において、DP の変更と併せて報告した [0403b] [0403c]。 対象年度外ではあるが、CP の変更に伴って 2023 年度学生便覧が修正されているが、一部正しく修正されていない箇所がある。Web サイトの更新と併せて適切な修正が必要である [0102c] [0203i]。				

自己点検・評価項目	0403	教育課程編成・実施の方針（CP）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)CP と教育課程の整合性はとれていますか。 (2)教育課程の編成にあたっての順次性および体系性への配慮をしていますか。（ナンバリング、カリキュラムマップ） (3)単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしていますか。 ・ 授業科目の性質、授業時間外に必要な学習を考慮した単位数の設定 (4)個々の授業科目の内容および方法は適していますか。 (5)授業科目の位置づけ（必修、選択等）は適切ですか。 (6)各学位課程にふさわしい教育内容を設定していますか。 【学士課程】 ・ 初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等 【修士課程、博士課程】 ・ コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等 (8)学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施していますか。			
現状説明				
博士前期課程・後期課程とも、各専攻の CP に基づいた教育課程を専攻・コースごとに体系的に編成しているが、インターンシップについては、大学院の科目の中に取り入れられていない [0102c pp. 53-63]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0403	歴史学・地理学専攻では、2 つの学問分野にわたる多彩な科目を用意し、歴史学か地理学の何れかの学位を授与している。博士前期課程の場合、他のコースの科目群からも 2 単位以上修得することを修了要件としており、博士後期課程においても、他分野の専門科目の修得を推奨している [0102c pp. 61-63]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0401	歴史学・地理学専攻の DP の記載方法の見直し
今後の改善・向上方策	
歴史学と地理学の2つの学位に対応した DP となるよう専攻内で見直し案を作成し、専攻主任連絡会で検討する。これを研究科委員会において審議したうえで教務委員会に諮り、外部に公表する。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0401	3 ポリの見直しに伴う Web サイト及び学生便覧の修正
今後の改善・向上方策	
DP・CP の変更に伴い、教務支援課、制作課との連携を強化し、媒体間の記載に齟齬が生じないように適切に修正し、公表する。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
0403 院生の研究報告会「院生の力」を研究科全体で開催しており、その際に院生の発表に対して指導教員がコメントする形式を取ることにより、専攻を越えて教員間で指導状況と研究の進捗状況を共有している [0102a p.9] [0403d]。この企画は、毎回少人数での発表であり十分に質疑応答ができ、教育における組織的な対応となっている。	
0401 研究科の DP の変更に伴って 2022 年度学生便覧は修正されているが、Web サイトは更新されておらず適切に公表できていない [0102c] [0203i]、また、歴史学・地理学専攻では、同一専攻において歴史学と地理学の2つの異なる学位を授与しているが、それぞれの学位に対応した DP を設定し公表してはいるものの、記載方法が不十分であるとの指摘を 2021 年度第 3 回自己点検・評価委員会（2022 年 2 月 15 日）で受けていたが、2022 年度末現在、改善できていない [0102c pp. ㉔-㉕] [0203i] [0203j] [0203k]、と現状を記述している。これらの点は具体的な改善が可能であり、早急に整理、公表する必要がある。	
長所・特色	
0403 院生の研究報告会「院生の力」を研究科全体で開催しており、その際に院生の発表に対して指導教員がコメントする形式を取ることにより、専攻を越えて教員間で指導状況と研究の進捗状況を共有している [0102a p.9] [0403d]。この企画は、毎回少人数での発表であり十分に質疑応答ができ、教育における組織的な対応となっている。	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
0401 研究科の DP の変更に伴って 2022 年度学生便覧は修正されているが、Web サイトは更新されておらず適切に公表できていない [0102c] [0203i]、また、歴史学・地理学専攻では、同一専攻において歴史学と地理学の2つの異なる学位を授与しているが、それぞれの学位に対応した DP を設定し公表してはいるものの、記載方法が不十分であるとの指摘を 2021 年度第 3 回自己点検・評価委員会（2022 年 2 月 15 日）で受けていたが、2022 年度末現在、改善できていない [0102c pp. ㉔-㉕] [0203i] [0203j] [0203k]、と現状を記述している。これらの点は具体的な改善が可能であり、早急に整理、公表する必要がある。【B】	

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		
		追加資料なし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	国際人間学研究科
--------	----------

基準 4	教育課程・学習成果 (2)
------	---------------

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0405	学位審査の規準や方法について、専攻ごとの特徴を尊重しながら、研究科としての統一性を維持できるように、専攻主任連絡会における点検だけでなく、更なる措置が望まれる。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
2021年度第8回専攻主任連絡会（2021年12月14日、メール審議）での審議を経て、第8回研究科委員会（2022年1月26日）に報告し、研究科共通の「国際人間学研究科学位審査基準内規」を制定した [0403a] [0403b] [0403c]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0404	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じていますか。	自己評価	A
評価の視点	<p>(1)【学部のみ】各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るため、1年間または学期ごとの履修登録単位数の上限設定等の措置を講じていますか。</p> <p>(2)シラバスに次の内容を組み込んでいますか。また、授業はシラバスどおりに行われていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の目的、達成目標、学習成果の指標、授業内容および方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法および基準等の明示 ・授業内容とシラバスとの整合性の確保 <p>(3)授業計画や成績評価の方法を変更した際、学生への周知を適切に行っていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容・方法の変更等に伴う対応 <p>(4)学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法を講じていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保 ・グループ活動の活用 <p>(5)学生の理解度、学習の進捗を適切に確認、把握していますか。</p> <p>(6)課題の量・質、フィードバックの方法は適切ですか。</p> <p>(7)授業の編成および管理運営は適切に行っていますか。</p> <p>【学士課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業形態に配慮した1授業あたりの受講者数になるように授業の編成を行っていますか。 ・履修指導は適切に実施していますか。 			

	<p>【修士課程、博士課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究指導計画（研究指導の内容および方法、年間スケジュール）を明示していますか。また計画に基づく研究指導を行うように取り組んでいますか。
<p>現状説明</p> <p>シラバスには、授業の目的、達成目標、学習成果の指標、授業内容および方法、成績評価および基準が明示されており、その内容については、毎年、専攻主任により第三者点検が行われ、必要に応じて科目担当者に修正を求めている [0404a]。</p> <p>受講生が少人数であるため、シラバスに記載された授業内容や方法などは受講生の状況に応じて変更し、柔軟に対応している。口頭で丁寧に説明することにより問題は生じていないが、その事実を示す根拠資料を欠いている [0404b]。本研究科の授業の多くは受講生が少なく、受講生によるレジュメの作成・発表をもとに議論するという演習形式を取り入れて、学生の主体的な参加を促している [0404c]。</p> <p>院生の研究成果を発表する場として研究報告会「院生の力」を年間2回公開で実施し、各自の研究の進捗状況を確認するとともに、教員や他の院生との質疑応答を通して、各自の研究を客観化する機会としている [0403d] [0102a p. 9]。院生の研究成果をアカデミック広報誌『GLOCAL』（年2回発行）に掲載し、広く公表している [0102a pp. 6-8]。学会等での発表や学術雑誌への投稿を推奨するとともに、研究成果を発表する場として院生の編集委員会により『国際人間学フォーラム』を年1回発行している [0404d] [0404e]。</p>	

自己点検・評価項目	0405	成績評価、単位認定および学位授与は適切に行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	<p>(1)シラバスに掲げている「達成目標」に基づき、成績評価がなされていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバス記載の「達成目標」「成績評価方法」に基づく成績評価 <p>(3)成績評価の客観性、厳格性を組織的に確認していますか。</p> <p>(6)学位論文審査がある場合、学位論文審査基準が明確に示され、かつ公表されていますか。</p> <p>(7)学位審査および修了認定の客観性および厳格性を確保するために、評価の基準、評価のレベルを示したルーブリックを用いた評価がなされていますか。</p> <p>(8)学位授与に係る責任体制および手続きは明確に示されていますか。</p> <p>(9)適切な学位授与を行っていますか。</p>			
<p>現状説明</p> <p>従来、各専攻で学位審査基準を定め、それらに基づき審査を行っていたが、研究科としての統一性の維持の必要性を2020年度のピアレビューで指摘されたことから、2021年度第8回専攻主任連絡会（2021年12月14日、メール審議）での審議を経て、第8回研究科委員会（2022年1月26日）に報告し、研究科共通の「国際人間学研究科学位審査基準内規」を制定した [0403a] [0403b] [0403c]。学位審査の評価基準及び審査手順については、学生便覧に掲載し、公表している [0102c pp. 51-52]。</p> <p>研究科共通の学位審査基準の制定に伴い、心理学専攻では専攻の内規を改定した [0405a] [0405b]。</p> <p>「持続社会創成教育プログラム（PEPS）における審査および修了手順」 [0405c] に基づき、当プログラムの成果物の提出や審査の詳細について、2022年度第10回専攻主任連絡会（2023年3月9日）において検討し、第11回研究科委員会（2023年3月15日）で審議のうえ、「『持続社会創成教育プログラム』に関する国際人間学研究科申し合わせ」を制定した [0405d] [0405e] [0405f]。加えて、各専攻・コースにおいて当プログラムの成果物の基準を検討し、既存の専攻ごとの学位審査基準内規の改訂を進めている。なお、言語文化専攻については、新たにコースごとに内規を制定することになったが、議事録に明記されていない。</p> <p>持続社会創成教育プログラムおよび9月修了に対応できるよう、専攻主任連絡会（2021年度第4回、2022年度第10回）での検討を経て、2021年度第4回研究科委員会（2021年7月28日）ならびに2022年度第11回研究科委員会（2023年3月15日）においてそれぞれ審議し、「中部大学大学院国際人間学研究科の学位に関する内規」を改訂した [0405d] [0405e] [0405g] [0405h] [0405i]。</p> <p>成績評価の客観性・厳格性については、公開で論文審査を行ったり [0405j]、「中部大学大学院 成績評価に関する規程」に成績評価の確認・訂正を願い出ることができることが明記されており、一定度の客観性・厳格性が確保されている [0102c P. 109]。</p>				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0404	受講生の状況に見合った柔軟な授業運営 [0404b]。
項目 No. 0404	研究報告会「院生の力」の開催 [0403d]。
項目 No. 0404	国際人間学研究科アカデミック広報誌『GLOCAL』の発行 [0102a]。
項目 No. 0404	院生による『国際人間学フォーラム』の発行 [0404e]。
項目 No. 0405	「持続社会創成教育プログラム」に関する国際人間学研究科申し合わせの制定 [0405f]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0404	授業内容とシラバスとの整合性の確保
今後の改善・向上方策	
シラバスに沿って授業が実施されているかを第三者が確認することは困難であるので、受講生の状況に応じて授業内容や方法を変更した場合に、その対応を示す根拠資料をどのように残すか、その方法について専攻主任連絡会において検討する。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
0404 本研究科の多くの授業では、受講生によるレジュメの作成・発表をもとに議論する演習形式を取り入れて、学生の主体的な参加を促している [0404c]。また公開研究報告会での研究成果の発表やアカデミック広報誌などへの公表を通して、大学院活性化と院生の研究力向上に積極的に取り組んでいる [0403d] [0102a p.9] [0102a pp.6-8]。	
0405 2022 年より、研究科共通の「国際人間学研究科学位審査基準内規」の制定と心理学専攻の内規改定 [0405a] [0405b]、『持続社会創成教育プログラム』に関する国際人間学研究科申し合わせの制定 [0405d] [0405e] [0405f]、『国際人間学研究科の学位に関する内規』の改訂 [0405d] [0405e] [0405g] [0405h] [0405i] など、学位授与の適切な制度化と運用を図っている。	
長所・特色	
0404 公開研究報告会やアカデミック広報誌などへの研究成果の積極的な公表 [0403d] [0102a] [0404e]。	
0405 持続社会創成教育プログラムへの取り組み [0405f]。	
留意点	
*各項目に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
特になし	

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		

	追加資料なし	
--	--------	--

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	国際人間学研究科
--------	----------

基準 4	教育課程・学習成果 (3)
------	---------------

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0406	学習成果の測定方法の検討について、研究科全体としては学習成果の把握・評価のための体制が十分に整っていないため、組織的に把握・評価するための方法の検討・導入が望まれる。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
修士論文や博士論文に関しては、構想発表、概要発表、中間発表、最終発表を各専攻において公開で行うことにより、毎年、成果の把握を行っている。それ以外、研究科全体として学習成果を組織的に把握・評価する方法については、具体的な検討を行っていない [0405j]。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0407	研究科全体としての定期的な自己点検・評価の実施。 教育課程及びその内容・方法の適切性について、年度ごとの「教育活動重点目標・自己評価シート」に加え、学期ごとの定期的な自己点検・評価の実施も望まれる。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
教育課程の見直しについては、毎年、教務委員会のスケジュールに沿って各専攻・コースにおいて行っており、各専攻から提出された案を研究科委員会で審議し、教務委員会に諮っている [0407a]。研究科全体で学期ごとに自己点検・評価を実施するのは現実的には難しい。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0406	学位授与の方針（DP）に明示した学生の学習成果を IR データも踏まえて適切に把握し、評価していますか。	自己評価	B
評価の視点	<p>(1) 学生の学習成果を測るための指標を定め、成果を確認していますか。</p> <p>(2) 【学部のみ】 成績分布、進級などの実績を学部・学科として把握していますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習成果に関する情報の把握と共有 <p>(3) 学習成果を把握・評価するために、以下の方法を用いて改善・向上に取り組んでいますか。</p> <p>≪学習成果の測定方法例≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント・テスト（GPS-Academic） 			

	<ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査（学びに関する調査 等） ・卒業生、就職先への意見聴取
現状説明	
<p>学会発表や学術雑誌への論文掲載を成果の把握に利用している[0404d]。 大学院の性格上、院生の日常的な学習成果について共通の測定指標を設定することは難しく、アセスメント・テストやルーブリック評価は大学院の性格になじまず実施していない。 研究科全体で学習成果を把握・評価するため、各専攻において修士論文や博士論文の構想や概要を公開で発表する機会を設けているが、基本的には指導教員が個別に把握し、指導を行っている [0405j]。これらの公開発表の場を、専攻を越えた研究科全体での点検・評価の取り組みとするためには、より多くの教員の参加が必要である。</p>	

自己点検・評価項目	0407	教育課程およびその内容、方法の適切性について、学位授与の方針 (DP)、教育課程編成・実施の方針 (CP) に基づき、IR データも活用して定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	自己評価	B
評価の視点	(1)適切な根拠資料に基づく定期的な自己点検・評価を行っていますか。 ・学習成果の測定結果の適切な活用 (2)自己点検・評価の結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。			
現状説明				
大学院では、学生数が限られていることから客観的データに基づいて定期的に自己点検・評価を行うことにはなじまず、各教員による個別指導から得られる主観的な情報に基づいた見直しぐらいしかできない。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0406	構想発表、概要発表、中間発表、最終発表を公開で行うことによる組織的な学習成果の把握・評価

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0406	学習成果の組織的な把握・評価
今後の改善・向上方策	
各専攻が公開で開催する構想・概要発表会等への積極的な参加を他専攻の教員に呼び掛ける。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0407	教育課程およびその内容、方法の適切性を点検する方法の検討
今後の改善・向上方策	
専攻会議において、教育課程およびその内容、方法の適切性を点検する基準や方法について議論し、実施に向けて検討する。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
0406 研究科全体で学習成果を把握・評価するため、各専攻において修士論文や博士論文の構想や概要を公開で発表する機会を設けているが、基本的には指導教員が個別に把握し、指導を行っている [0405j]。これらの公開発表の場を、専攻を越えた研究科全体での点検・評価の取り組みとするためには、より多くの教員の参加が必要である。
長所・特色
0406 構想発表、概要発表、中間発表、最終発表を公開で行うことによる組織的な学習成果の把握・評価。 0406 学会発表や学術雑誌への論文掲載を成果の把握に利用している[0404d]。
留意点
*各項に留意点レベルを記入 【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
特になし

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		
		追加資料なし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織 国際人間学研究科

基準 5 学生の受け入れ

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0503	留学生や社会人も含めた幅広い受け入れの推進。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
<p>コロナ禍で停滞していた内モンゴル大学からの留学生の受け入れを継続的に行っていくため、2022年度第2回・第3回専攻主任連絡会（2022年5月17日・6月14日）で「2023年度学術交流協定機関選考事前審査要項（案）」について検討し、第3回研究科委員会（2022年6月22日）において審議した [0503a] [0503b] [0503c]。そして、この事前審査要項に基づき事前審査を行い、審査結果と筆記試験免除について2022年度第4回研究科委員会（2022年7月27日）において審議のうえ承認した [0407a]。これにより10月入試の留学生試験に4名が出願することとなり、入試・選抜委員会（2022年10月19日）での審議の結果、合格となった（国際関係学専攻3名、歴史学・地理学専攻1名） [0503d]。</p> <p>2022年9月8日（木）に専攻主任連絡会のメンバーと内モンゴル大学との交流担当教員とにより、2023年度入試の反省点を踏まえて、事前審査のスケジュールや日本語能力試験の義務化等について検討し、2024年度以降の入試に向けた事前審査要項の見直しを行った [0503e]。検討した改善方針については、2022年11月30日（水）に内モンゴル大学の担当者とオンラインによる打ち合わせを行い了承が得られたので、事前審査要項の見直し案を第10回研究科委員会（2023年2月28日）において報告した [0503f] [0503g]。見直した事前審査要項に基づき、2023年1月16日（月）に内モンゴル大学の在学学生・卒業生を対象とした2024年度入試説明会をオンラインにより開催し、15名の参加があった [0503h] [0503i]。</p> <p>一般の進学希望者向けにも、年3回の入学試験の実施時期に合わせて入試説明会を開催しているが、参加者は少数である [0503j]。</p>	

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0503	収容定員を満たすために努力していることは理解できるが、定員を満たさない状態が続いている。学部段階から、進路の選択肢に大学院進学があることを学生に周知するなど、組織的検討と取り組みが必要である。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
<p>学部卒業後の進路の選択肢の一つに大学院進学があることを学部入学時から意識することにより、大学院進学を考えて学部の勉強を頑張る学生が一人でも現れることを期待して、スタートアップセミナーなどのキャリア教育の時間に配布してもらうよう、新入生向けの大学院進学案内チラシを作成した [0503k]。</p> <p>国際関係学部棟（20号館）と人文学部棟（25号館）の1階エントランスの目につきやすい場所に研究科のアカデミック広報誌『GLOCAL』を置いて、興味のある学部生が手に取って見たり、自由に持ち帰ったりできるようにしている（Vol. 21より） [0102a]。</p>	

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0504	内モンゴル大学に限らず、海外の大学との交流協定を活かし、大学院に留学する留学生を確保する方策を検討する必要がある。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	

内モンゴル大学との学術交流協定は2019年1月12日に締結しており、2023年が有効期間最後の5年目となり、継続の可否を判断する必要がある。学術交流協定機関からの留学生の受け入れに関しては、それぞれの大学の状況を加味した制度設計が必要となることから、まずはコロナ禍で停滞していた内モンゴル大学から留学生の受け入れを継続的に進めるシステムを確立させたいと、次のステップを考える [0504a]。

□ 課題事項 ☒ ピアレビュー結果 (留意点)	
項目 No. 0504	入学定員を満たすための努力は認められるが、定員確保のための方策を組織的に検討する体制が必要である。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
2つの学部に跨る本研究科からは、大学院定員充足率改善検討委員会の WG 委員として2名の教員が参加している [02031]。この2名の WG 委員と研究科長とによりワーキング会議に提出する資料のたたき台を作成し [0504b] [0504c]、これをもとに第8回・第9回専攻主任連絡会において検討を重ね、その内容を第9回・第10回研究科委員会にて報告し、広く意見を募集した [0504d] [0504e] [0504f]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んでいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0501	入学者受入れの方針(AP) を定めて、公表していますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)学位授与の方針(DP)および教育課程編成・実施の方針(CP)を踏まえた方針となっていますか。 (3)【新学科・新専攻設置時のみ】社会に対し公表していますか。 (4)下記を踏まえた AP を設定していますか。 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法			
現状説明				
博士前期課程・博士後期課程とも、専攻ごとに明確な AP を定め、大学 HP や入学試験要項等で公表している [0203i][0501a p.37]。DP、CP を変更した専攻では、それらの変更に合わせて AP の見直しも行っている [0403a]。				

自己点検・評価項目	0502	入学者受入れの方針(AP) に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施していますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)AP と入試形態は整合していますか。 ・求める学生像と入試形態との整合性 (2)AP に基づき、大学教育を受けるための能力・適性等を判定できる入学者選抜の方法を採用していますか。 ・教育課程編成・実施の方針 (CP) との連関性			
現状説明				
専攻ごとの AP に従い、書類審査、筆記試験、面接により合格基準に基づき総合的に判断し、公正かつ適切な入学者の受入を実施している [0501a pp.24-27]。 合格基準に関しては、2020年度第10回専攻主任連絡会において審議した [0502a]。 2020年度第6回研究科委員会(2020年10月28日)において、大学院科目等履修生の受け入れ基準の見直しに伴い、入試の試験免除基準を変更する案が承認された。これに従い2020年度第7回研究科委員会において「大学院国際人間学研究科(6月試験)入学試験の筆記試験免除基準に関する内規」の一部改正を行った [0502b] [0502c] [0502d]。				

2022 年度に学術交流協定機関選考の事前審査要項を作成し、この要項に従い 10 月の留学生試験において内モンゴル大学からの留学生の選抜を行った [0503a] [0503b] [0503c] [0407a] [0503d]。さらに、次年度以降に向けて、専攻主任連絡会のメンバーと内モンゴル大学との交流担当者として、事前審査のスケジュールや日本語能力試験の義務化等の改善すべき点について検討し、事前審査要項を改訂した [0503e] [0503f] [0503g]。

自己点検・評価項目	0503	適切な定員を設定し、入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していますか。	自己評価	B
評価の視点	<p>入学定員および収容定員の適切な設定と在籍学生数を管理していますか。</p> <p>【学士課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰または未充足に関する対応 <p>【修士課程、博士課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収容定員に対する在籍学生数比率 			
現状説明				
<p>大学院定員充足率改善検討委員会の 2 名の WG 委員を中心に、適宜、研究科委員会に報告しながら、専攻主任連絡会において、定員充足率の改善に向けた具体的な方策ならびに実施計画について検討した [0504b] [0504c] [0504d] [0504e] [0504f]。</p> <p>本研究科では、在籍学生数は定員を満たせていない状況が続いているものの、収容定員に対する比率に関しては大学基準協会が示す基準を満たしていることから、当面は定員の削減は行わず、入学者数の確保に向けたさまざまな取り組みをより一層充実させて、基準を下回る状況が長く続いた場合に改めて定員の見直しを行うこととした [0504d] [0504e]。</p>				

自己点検・評価項目	0504	学生募集および入学者選抜は、入学者受入れの方針(AP)に基づき、IR データも活用し、公正かつ適切に実施されているか定期的に検証を行っていますか。	自己評価	B
評価の視点	<p>(1) 学生募集や入学者選抜方法の適切性について検証していますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会等における根拠資料に基づいた定期的な検証 <p>(2) 自己点検・評価の結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。</p>			
現状説明				
<p>2022 年度に実施した学術交流協定機関選考 (内モンゴル大学) の実績を踏まえて、事前審査のスケジュールや日本語能力試験の義務化等について検討し、2024 年度入試に向けた事前審査要項の見直しを行った [0503e] [0503f] [0503g]。2023 年度は内モンゴル大学との学術交流協定の最終年度にあたることから、5 年間の実績を踏まえて協定の継続について検討する [0504a]。</p>				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0503	2023 年度入試において事前審査要項を制定し、学術交流協定機関である内モンゴル大学から留学生 4 名を選抜した [0503c] [0503d]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み (予定) および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0503	収容定員を満たせるよう、内部進学者・留学生・社会人の受け入れを一層推進する。
今後の改善・向上方策	
<p>大学院定員充足率改善検討委員会 WG に提出した「大学院定員充足率改善方策 実施計画」に基づき、学内からの一般進学者、学術交流協定機関からの留学生、定年退職後のシニア世代の社会人をターゲットにした地道な取り組みを充実させながら実施していく [0504f]。</p> <p>進学説明会については、受験希望者のみを対象とした相談会とするのではなく、広く大学院進学 PR の機会として参加者を増やしていく [0503j]。</p>	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	<p>0504 2022 年度に実施した学術交流協定機関選考（内モンゴル大学）の実績を踏まえて、事前審査のスケジュールや日本語能力試験の義務化等について検討し、2024 年度入試に向けた事前審査要項の見直しを行っている [0503e] [0503f] [0503g]。また、コロナ禍の中、2023 年度入試において事前審査要項を制定し、学術交流協定機関である内モンゴル大学から留学生 4 名を選抜した [0503c] [0503d]。学術交流として機能している点が高く評価できる。2023 年度は内モンゴル大学との学術交流協定の最終年度にあたることから、5 年間の実績を踏まえて協定の継続について検討する [0504a]。</p>
長所・特色	<p>0504 コロナ禍の中、2023 年度入試において事前審査要項を制定し、学術交流協定機関である内モンゴル大学から留学生 4 名を選抜した [0503c] [0503d]。学術交流として機能している点が評価できる。</p>
留意点	<p>*各項に留意点レベルを記入</p> <p>【A】・・・緊急の改善を要する事項</p> <p>【B】・・・検討を要する事項</p>
特になし	

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		
		追加資料なし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	国際人間学研究科
--------	----------

基準 6	教員・教員組織
------	---------

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0605	退職による欠員を補う適切な教員配置の必要性
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
基本的に採用人事については学部・学科の人事が前提となることから、大学院の各専攻・コースごとに学科人事と併せて検討している [0602a]。適切な教員配置の必要性は十分に認識しているものの、退職による欠員の補充は実現できておらず、退職者に特任教授等としての継続をお願いするなどにより対応している [0602b]。	

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0605	教員組織の適切性について、定期的に自己点検を行い、その結果を改善につなげていく仕組みが確認できない。2つの学部のバランスを考慮した定期的な点検をする仕組みが必要である。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
教員組織の適切性については、毎年の授業編成の際に各専攻・コースの会議において科目担当者を確認するとともに、退職等により欠員が生じた場合にはその都度対応している [0605a] [0602a]。 学部・学科のあり方に規定されるため、2つの学部のバランスを考慮した点検に関しては行っていない。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んでいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0602	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制していますか。	自己評価	A
評価の視点	<p>(1)大学全体および学部・研究科等ごとの専任教員数は、適切ですか。</p> <p>(2)教育理念・目的を実現できる教員組織を編制していますか。(方針等に基づく組織編制の明確化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員組織の編制に関する方針と教員組織の整合性 ・各学位課程の目的に即した教員配置 ・国際性、男女比 ・特定の範囲の年齢に偏ることのないバランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置 ・各組織における将来計画の設定 ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員（教授、准教授、講師または助教）の適正な配置 			

	<ul style="list-style-type: none"> ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・教員の授業担当負担への適切な配慮
現状説明	
<p>毎年、教育職員定員・現員表（大学院）の更新に際して、教員組織の適切性について確認している [0602b]。 退職等により専攻内の人員に変更が生じる際に、専攻・コース会議において学科の人事計画との整合を図りながら、学問の分野・領域に加えて、教員の資格、年齢、国際性、男女比等を考慮して検討している [0602a] [0602c]。</p>	

自己点検・評価項目	0603	教員の募集・採用・昇格等を適切に行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	<p>(1)教員人事関連規程が整備され、適切な手続きによる運用をしていますか。 ・教員の募集・採用・昇格等に関する規程の整備および手続きの設定 (2)規程等に従った適切な教員人事（募集、採用、昇任等）を実施していますか。</p>			
現状説明				
<p>大学院担当資格審査については、「教育職員の人事の手続きに関する細則」に則り研究科内に資格審査会を設置し、「国際人間学研究科大学院担当資格基準」に基づき審査した結果を研究科委員会において審議しており、2022年度は14名の資格審査を行った [0603a] [0603b] [0603c]。 2021年度第5回専攻主任連絡会（2021年9月14日）において「国際人間学研究科大学院担当資格基準」の改正を承認し、2021年度第8回研究科委員会（2022年1月26日）で報告した [0603d] [0403b] [0603e]。</p>				

自己点検・評価項目	0604	ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげていますか。	自己評価	A
評価の視点	<p>(1)FD活動を組織的に実施していますか。 (2)教員の教育活動、研究活動、社会活動等を評価し、その結果を活用していますか。</p>			
現状説明				
<p>教員による研究発表会を年に2回開催し、その要旨を研究科のアカデミック広報誌『GLOCAL』に掲載して教員の研究力向上に努めている [0604a] [0102a]。 年2回の院生の研究報告会（院生の力）では、院生の発表に対して指導教員がコメンテーターを務め、教員の教育力向上に努めている [0403d]。 若手研究者の研究向上に向けて、国際人間学研究所との共催により「科研費情報交換会」（2020年10月28日）を開催した [0203d] [0604b]。</p>				

自己点検・評価項目	0605	教員組織の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	自己評価	B
評価の視点	適切な根拠資料に基づく定期的な自己点検・評価を実施し、その結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。			
現状説明				
<p>教員組織の適切性については、毎年の授業編成の際に各専攻・コースの会議において科目担当者を確認するとともに、退職等により欠員が生じた場合にはその都度対応している [0605a] [0602a]。</p>				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0602	2つの学部にかつった研究科であることによる広範な領域・分野と英語母語者を含む多彩な教員配置 [0602b] [0602c]。
項目 No. 0604	教員研究会及び院生研究報告会（院生の力）の開催（各年2回）とアカデミック広報誌『GLOCAL』への要旨の掲載（年2回） [0604a] [0403d] [0102a]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0602	研究科・専攻の人員計画に基づく計画的な教員組織の編制
今後の改善・向上方策	
人員計画を定期的に見直し、研究科・専攻として必要な人材については、学部・学科と連携しながら継続的に求めていく [0602a]。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0605	特任教授等に依存している特定分野・領域の研究指導教員の確保
今後の改善・向上方策	
大学設置基準を満たすよう、教員の退職に伴い欠員が想定される分野・領域のD マル合教員を確保する [0602a]。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
レビューなし
長所・特色
留意点
*各項に留意点レベルを記入
【A】・・・緊急の改善を要する事項
【B】・・・検討を要する事項

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	国際人間学研究科
--------	----------

基準 7	学生支援
------	------

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0702	インターンシップ実施の必要性の検討。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
「次世代研究者挑戦的研究プログラム」に採択された博士後期課程の院生が2022年9月の2週間、愛知県公文書館でインターンシップに参加したが、研究科としてはインターンシップに関する検討はできていない [0702a]。今後、インターンシップも含め、大学院における就職支援のあり方について専攻主任連絡会で検討していく。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0702	学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備していますか。また、学生支援は適切に行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	<p>(2)学生の修学に関する適切な支援を実施していますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の能力に応じた補習教育、補充教育 ・正課外教育 ・留学生等の多様な学生に対する修学支援 ・障がいのある学生に対する合理的配慮 ・成績不振の学生の状況把握と指導 ・留年者および休学者の状況把握と対応 ・退学希望者の状況把握と対応 <p>(4)学生の生活に関する適切な支援を実施していますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の相談に応じる体制の整備 ・ハラスメント（アカデミック、セクシュアル、モラル等）防止のための体制の整備および啓発活動 ・心身の健康維持・増進および安全への取り組み <p>(5)学生の進路に関する適切な支援を実施していますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の実施 ・学生のキャリア支援を行うための体制（学部との協力・連携を含む）の整備 ・進路選択に関わる支援やガイダンスの実施 ・キャリア支援講座などの実施 			

	<p>(6) 【研究科のみ】 学生の進路に関する適切な支援を実施していますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士課程における、学識を教授するために必要な能力を培うための機会の設定または当該機会に関する情報提供 <p>(7) インターンシップを実施していますか。</p> <p>【学士課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・充実したインターンシップの実施 <p>【修士課程、博士課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施可能な体制の整備
現状説明	
<p>留学生に対しては国際センターが提供する日本語支援プログラムの受講を勧め、講義の受講や研究活動を円滑に行える日本語能力の修得を支援している[0702b]。</p> <p>コロナ禍により、従来のセブ島での学内進学者向けの大学院進学者英語短期研修（国際センター主催）が行われなかったが、これに代わる英語研修を入学予定者に勧め、進学後の学会発表等に備え、英語運用能力の向上を支援している[0702c]。</p> <p>2020年秋に入学した留学生がコロナ禍で来日できなかったため、国際関係学専攻の教員が連携・調整し、オンラインにより授業を実施した [0702d]。</p> <p>研究科共通科目として、留学生向けに「日本語論文の書き方Ⅰ・Ⅱ」（各2単位・修了要件に含めず）を開講している[0102c pp.53-63]。</p> <p>院生による編集委員会において、大学院生を対象とした論集『国際人間学フォーラム』を年1回刊行し、自らの研究成果を発表する機会を提供している[0404e]。</p> <p>「次世代研究者挑戦的研究プログラム」に採択された博士後期課程の院生が2022年9月の2週間、愛知県公文書館でインターンシップに参加した [0702a]。</p>	

自己点検・評価項目	0703	学生支援の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	自己評価	C
評価の視点	(2) 自己点検・評価の結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。			
現状説明				
個々の問題が発生した際に各専攻・コースの会議において対応を検討しており、学生支援の適切性に関する自己点検・評価は行えていない。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0702	留学生向け科目「日本語論文の書き方Ⅰ・Ⅱ」の開講[0102c pp.53-63]。
項目 No. 0702	コロナ禍で来日できなかった留学生に対する遠隔授業による対応 [0702d]

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0702	就職支援のあり方の検討
今後の改善・向上方策	
インターンシップも含めた就職支援のあり方の検討など、学生の進路に関する学生支援の適切性について自己点検・評価が行えていないため、各専攻・コースごとに意見を集約して専攻主任連絡会において検討する。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
0702 留学生に対しては国際センターが提供する日本語支援プログラムの受講を勧め、講義の受講や研究活動を円滑に行える日本語能力の修得を支援している[0702b]、研究科共通科目として、留学生向けに「日本語論文の書き方 I・II」（各 2 単位・修了要件に含めず）を開講している[0102c pp.53-63]、など、留学生に対する語学・研究支援がなされているが、「評価の視点（4）」に該当する日常の学生生活に対するサポートや、キャリア支援のシステムが充実していくことが望まれる。 0702 院生による編集委員会において、大学院生を対象とした論集『国際人間学フォーラム』を年 1 回刊行し、自らの研究成果を発表する機会を提供している[0404e]、これは大学院生が研究を実践的に学ぶ独自のシステムであり評価できる。	
長所・特色	
0702 院生による編集委員会において、大学院生を対象とした論集『国際人間学フォーラム』を年 1 回刊行し、自らの研究成果を発表する機会を提供している、ことは特色ある企画である。	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	
	【A】・・・緊急の改善を要する事項
	【B】・・・検討を要する事項
特になし	

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		
		追加資料なし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	国際人間学研究科
--------	----------

基準 8 教育研究等環境

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☑ 課題事項	☑ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0802	院生の研究環境の更なる充実。 院生室、机、椅子、PC、空調など研究環境整備の取り組みが必要である。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
院生室の機器・備品類の老朽化が進んでいるが、予算の関係上、更新が進んでおらず、院生のニーズを把握しながら、予算の目途が立ったものから順次整備を進めていく [0802a]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0802	教育研究等環境に関する方針に基づき、必要な校地および校舎を有し、かつ運動場等の教育研究活動に必要な施設および設備を整備していますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)教育課程の特徴、学生数、教育方法に応じた施設・設備の充実を図っていますか。			
現状説明	院生室の機器・備品類の老朽化が進んでいるが、予算の関係上、更新が進んでおらず、院生のニーズを把握しながら、予算の目途が立ったものから順次整備を進めていく [0802a]。 施設・設備的には十分とは言えないまでも、国際関係学部棟（20号館6階）と人文学部棟（26号館1階）のそれぞれに共同院生室を設けている。しかし、国際関係学専攻の院生は大半が留学生であり、研究科の院生総数や留学生の専攻による偏りなどを考慮すると、院生室を1か所に集約する方が院生間の交流も活発になり、教育研究活動上、望ましいのではないかと意見がある。専攻主任連絡会において、このような院生室のあり方に関する課題は共有しているものの、具体的な議論には至っていない。			

自己点検・評価項目	0805	研究倫理を遵守するために必要な措置を講じ、適切に対応していますか。	自己評価	B
評価の視点	研究倫理、研究活動の不正防止に関する取り組みをしていますか。 ・研究倫理、研究活動に関する規程の整備 ・教員および学生における研究倫理確立のための機会等の提供（コンプライアンス教育および研究倫理教育の定期的な実施等） 研究倫理に関する審査委員会等の設置			

現状説明	
<p>国際人間学研究科のみに所属している教員はいないため、教員を対象とした研究倫理教育については学部教授会において行われている [0805a]。</p> <p>院生に対する教育については「研究ガイドブック」の配布や指導教員による個別指導に止まっており、e-APRIN の受講指導が十分に行えていない。</p>	

自己点検・評価項目	0806	教育研究等環境の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	適切な根拠資料に基づく定期的な自己点検・評価を実施し、その結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。			
現状説明				
<p>研究科の教育研究等環境の適切性については、「教育研究に係る学部等重点事業計画案」と「中期予算調査票」の提出の際に毎年、専攻主任連絡会で審議している [0806a] [0806b] [0806c] [0806d] [0802a]。</p>				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0802	専門分野の異なる多様な院生が使用する共同院生室 [0802b]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0802	共同院生室のあり方の検討。
今後の改善・向上方策	
専攻主任連絡会においてたたき台を作成し、各専攻で意見を取りまとめて院生室のあり方について検討する。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
<p>0802 「施設・設備的には十分とは言えないまでも、国際関係学部棟（20号館6階）と人文学部棟（26号館1階）のそれぞれに共同院生室を設けている」点は、多様性も鑑み、相談し合いながら学ぶ環境として素晴らしい。</p> <p>0802 「専攻主任連絡会において、このような院生室のあり方に関する課題は共有しているものの、具体的な議論には至っていない」とあり、院生のニーズも必要であるが、具体的に何が足りていないのか教員間での検討について明確にされていない。</p> <p>0805 研究倫理教育は「研究ガイドブック」の配布や指導教員による個別指導に止まって」と記されていたが、現状では研究倫理eラーニングの受講率は6割程度であり、留学生も日本語で受講していると口頭で回答された。難易度は高く、留学生の日本語の能力に合わせた指導が必要であることも口頭で回答された。日本語能力検定等のレベルも入学条件にはあがっていないことから個別指導が今後の課題であると考えられた。</p>	
長所・特色	

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織 国際人間学研究科

基準 9 社会連携・社会貢献

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0902	海外の研究者の講演会やシンポジウムは、本学来訪を機とした場合が大半であり、体系的や計画性が乏しい。組織として、一定の系統性をもった計画的企画が必要である。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
講演会やシンポジウムの開催に関しては、国際人間学研究所や専攻が主催・共催するものばかりで、研究科として系統性をもった企画は計画できていない。	

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0902	学術的な国際交流活動に関する記録(参加人数、学生・教員・外部参加者の内訳等)を残しその検証の資料とする必要がある。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
歴史学・地理学専攻が人文学部歴史地理学科と共催した講演会に関しては、参加人数を学生・教職員・一般に分けて集計し、学科会議（専攻会議）の議事録に記録している [0902a]。	

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0902	活動の結果を、その記録にもとづいて検証するシステム（組織や仕組み）を設ける必要がある。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
国際人間学研究所の活動については、毎年シンポジウムを開催し、その成果を報告書としてまとめている [0902b] [0902c]。また、歴史学・地理学専攻が共催した講演会については、『GLOCAL』Vol. 21 にその要旨を掲載している [0902d]。ただし、記録は残しているが、それに基づいて検証するシステムを構築するまでには至っていない。	

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0902	多くの教員の社会貢献活動が個別活動に終わり、組織としての共有と位置付けが必要である。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
個々の活動成果を共有するとともに、それを踏まえて次年度の活動計画を研究科として体系的に立案していくことを検討する。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んで段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0902	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していますか。また、教育研究成果を適切に社会に還元していますか。	自己評価	A
評価の視点	(2)社会連携・社会貢献に関する教育研究活動を組織的に推進していますか。 ・国際交流・地域交流事業への参加等			
現状説明				
本研究科の所属教員・院生が、国際人間学研究所のプロジェクト「持続可能な観光」に参加し、恵那市・高山市・稚内市・春日井市との交流活動や社会貢献活動を展開している [0902c]。本研究科の専攻が学科との共催により、講演会「子孫が語る日米の架け橋～ジョン万次郎の生涯～」を開催した [0902d]。 個別の教員単位、あるいは国際人間学研究所のプロジェクトとして、社会連携・社会貢献活動による教育研究活動が推進されており、研究科として組織的には推進できていない。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0902	国際人間学研究所を中心とした社会連携・社会貢献活動の展開 [0902c]
項目 No. 0902	研究科所属教員・院生の地域活動への積極的参加による社会貢献 [0902c]

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0902	研究科としての組織的、計画的な活動の展開の検討
今後の改善・向上方策	
講演会やシンポジウムの開催が単発に終わっており、専攻主任連絡会や研究科委員会において、個々の活動実績および成果を共有することにより研究科としての取り組みの方向性を検討し、講演会やシンポジウムを系統的に開催するような体制を整備し、教育研究成果の社会還元に努める。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
レビューなし
長所・特色

留意点 ＊各項に留意点レベルを記入 【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項	

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
 ●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
 △：現部署で保管

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	国際人間学研究科
--------	----------

基準 11	大学独自の評価項目
-------	-----------

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	個人の努力に依存していた業務内容をシステムティックに担う委員会の設置。専攻内の委員会等については、言語文化専攻では、今後研究科のアカデミック広報誌『GLOCAL』の編集委員会やWeb ページ委員会などの設立を計画されており、ぜひ実現されることを期待する。また他の3専攻に関しても、専攻・研究科の発展につながる計画の企画など、情報交換だけでなく組織として運営していくための体制づくり、委員会規定の制定、委員会の業務内容等の検討、充実を図ることが望まれる。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
研究科・専攻内における委員会の設置については検討できていない。アカデミック広報誌『GLOCAL』については、専攻主任連絡会において存続も含めて検討し、研究科長が編集長を務め、専攻主任が執筆者とのやり取りを行うことで継続することとなった [1120a]。Web サイトについては、研究科全体の取りまとめ役を研究科所属教員に依頼し、各専攻からも担当者を選出したが、具体的には組織的な取り組みは行っていない [0407a]。	

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	業務内容の点検のために重要な役割を果たすものの一つが、各専攻の議事録である。歴史学・地理学専攻、心理学専攻では、議事録を作成しているが、まだ作成していない専攻があるなど、改善の余地が見受けられる。今後全専攻が議事録を作成し、業務内容を毎年評価することで、国際人間学研究科がさらに発展することを期待する。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
国際関係学専攻では、専攻会議をメール審議方式で行っており、議事内容を書面で丁寧に説明したうえで意見を受付けている [1120g]。また、言語文化専攻は3コースからなるため、各コースに連絡担当者を置き、専攻主任が検討事項や依頼事項をメールで連絡し、メール上での意見交換を行い、その文面を記録として残している [1120h]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていき	自己評価	B
-----------	------	---------------------------------------	------	---

評価の視点	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。
現状説明	
<p>研究科では、研究科委員会及び専攻主任連絡会について毎回開催通知をメールで配信するとともに、それぞれ議事録を作成している[1120b][1120c] [1120d] [1120e]。</p> <p>各専攻においても、心理学専攻および歴史学・地理学専攻では毎月専攻会議を開催し、議事録を作成している [1120f] [0605a]。また、国際関係学専攻および3つのコースからなる言語文化専攻ではメールで審議しており、議事リストやメールの文面を記録として残している [1120g] [1120h]。</p> <p>これまで議事録の確認は会議中に行っていたが、2022年度からは開催通知の送付時に議事録(案)を送付し、異議・修正等があれば委員会開催2日前までに申し出てもらい、委員会では承認の決議をとる形に変更した [1120i]。</p>	

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1120	3 コースからなる言語文化専攻では、各コースに連絡担当者を置き、メール上での意見交換を行う体制を整えている。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み(予定)および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1120	Web サイトの充実に向けた組織的な取り組み。
今後の改善・向上方策	
研究科及び各専攻・コースのWeb サイト担当者により組織的に検討を進め、研究科のWeb サイトを充実させる。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1120	メール開催による専攻会議における審議内容の保管方法の検討・実施。
今後の改善・向上方策	
専攻会議をメールで開催している国際関係学専攻および言語文化専攻では、議事内容については文書で提示しているものの、メールで行われた意見交換の内容や決定事項については個別メールとして保存されているのみであるため、審議内容の保管方法について、それぞれの専攻において検討し、実施する。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

III. ピアレビュー結果

総評	レビューなし
長所・特色	

留意点 *各項に留意点レベルを記入 【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項	

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		

- 提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2023年度 自己点検・評価シート 根拠資料一覧

組織名

国際人間学研究科

基準 (シートNo.)	根拠資料No.		根拠資料の名称	提出 区分
	項目No.	記号		
1. 理念・目的 (NF0101)	0102	a	国際人間学研究科アカデミック広報誌『GLOCAL』Vol.22 https://www.chubu.ac.jp/academics/wp-content/uploads/sites/9/2023/03/graduate-global-humanics-report-22.pdf	○
	0102	b	大学院に関する情報 教育研究上の目的 Webサイト https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/graduate-list/graduate-global-humanics/	○
	0102	c	2022年度大学院学生便覧	○
	0102	d	アカデミック広報誌『GLOCAL』Vol.22 学外送付先リスト	○
2. 内部質保証 (NF0201)	0203	a	2020年度第4回国際人間学研究科委員会議事録	○
	0203	b	2020年度ピアレビュー報告書 (PF0201)	○
	0203	c	2020年度第5回国際人間学研究科専攻主任連絡会議事録	○
	0203	d	2020年度第5回国際人間学研究科委員会議事録	○
	0203	e	国際人間学研究科 自己点検・評価委員会内規	○
	0203	f	2022年度第8回・第9回国際人間学研究科委員会議事録	○
	0203	g	2022年度第8回国際人間学研究科専攻主任連絡会議事録	○
	0203	h	2022年度第2回大学院定員充足率改善検討委員会WG資料 (抜粋)	○
	0203	i	3つのポリシー 大学院国際人間学研究科 各専攻Webサイト https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/	○
	0203	j	2021年度第3回自己点検・評価委員会議事録	○
	0203	k	2021年度第3回自己点検・評価委員会資料6	○
	0203	l	大学院定員充足率改善検討委員会WG委員名簿	○
4. 教育課程・学習成果(1) (NF0401)	0403	a	2021年度第8回国際人間学研究科専攻主任連絡会メール審議記録	○
	0403	b	2021年度第8回国際人間学研究科委員会議事録	○
	0403	c	2021年度第8回国際人間学研究科委員会資料6	○
	0403	d	研究報告会「院生の力」ポスター (第12回～第17回)	○
4. 教育課程・学習成果(2) (NF0402)	0404	a	シラバス第三者点検依頼メール	○
	0404	b	「社会経済史特論Ⅰ」シラバス	○
	0404	c	「都市政策学特論Ⅰ」シラバス	○
	0404	d	国際人間学研究科学位審査基準内規	○
	0404	e	『国際人間学フォーラム』No.17・No.18 (表紙・目次・奥付)	○
	0405	a	2021年度第10回国際人間学研究科専攻主任連絡会議事録	○
	0405	b	2021年度第10回国際人間学研究科専攻主任連絡会資料5	○
	0405	c	持続社会創成教育プログラム (PEPS) における審査および修了手順	○
	0405	d	2022年度第10回国際人間学研究科専攻主任連絡会議事録	○
	0405	e	2022年度第11回国際人間学研究科委員会議事録	○
	0405	f	「持続社会創成教育プログラム」に関する国際人間学研究科申し合わせ	○
	0405	g	2021年度第4回国際人間学研究科専攻主任連絡会議事録	○
	0405	h	2021年度第4回国際人間学研究科委員会議事録	○
	0405	i	中部大学大学院国際人間学研究科の学位に関する内規	○
0405	j	構想発表会(M1)・概要発表会(M2)・中間発表会 (D1・D2)・最終発表会 (D3) ポスター	○	
4. 教育課程・学習成果(3) (NF0403)	0407	a	2022年度第4回国際人間学研究科委員会議事録	○
	0501	a	2023年度中部大学大学院入学試験要項 (10月試験・2月試験) https://www.chubu.ac.jp/admissions/wp-content/uploads/sites/15/2022/05/2023md.pdf	○
	0502	a	2020年度第10回国際人間学研究科専攻主任連絡会議事録	○
	0502	b	2020年度第6回国際人間学研究科委員会議事録	○
	0502	c	2020年度第7回国際人間学研究科委員会議事録	○

(様式1-4)

5. 学生の受け入れ (NF0501)	0502	d	2020年度第7回国際人間学研究科委員会資料6	○	
	0503	a	2022年度第2回・第3回国際人間学研究科専攻主任連絡会議事録	○	
	0503	b	2022年度第3回国際人間学研究科委員会議事録	○	
	0503	c	国際人間学研究科 2023年度学術交流協定機関選考 事前審査要項	○	
	0503	d	中部大学2023年度大学院入試(10月)入学者選抜結果	○	
	0503	e	2024年度以降の学術交流協定機関選考に向けての改善方針(9/8検討結果)	○	
	0503	f	2022年度第10回国際人間学研究科委員会議事録	○	
	0503	g	国際人間学研究科学術交流協定機関選考 事前審査要項(改訂版)	○	
	0503	h	内モンゴル大学2024年度入試説明会資料	○	
	0503	i	内モンゴル大学入試説明会記録	○	
	0503	j	国際人間学研究科入試説明会ポスター	○	
	0503	k	新入生用大学院進学案内チラシ	○	
	0504	a	内モンゴル大学との学術交流協定書	○	
	0504	b	大学院定員充足率改善検討依頼メール	○	
	0504	c	大学院定員充足率改善WG宿題への回答案	○	
	0504	d	2022年度第8回・第9回国際人間学研究科専攻主任連絡会議事録	○	
	0504	e	2022年度第9回・第10回国際人間学研究科委員会議事録	○	
	0504	f	大学院定員充足率改善方策・実施計画	○	
	6. 教員・教員組織 (NF0601)	0602	a	2022年度第2回・第9回歴史地理学科学科会議事録	●
		0602	b	2023年度教育職員定員・現員表(大学院)	○
0602		c	言語文化専攻教員一覧	○	
0603		a	教育職員の人事の手続に関する細則	○	
0603		b	国際人間学研究科大学院担当資格基準	○	
0603		c	2022年度第6回・第7回・第8回国際人間学研究科委員会議事録	○	
0603		d	2021年度第5回国際人間学研究科専攻主任連絡会議事録	○	
0603		e	大学院担当資格基準(国際人間学研究科)一部改正の新旧対照表	○	
0604		a	教員研究会ポスター(第13回～第18回)	○	
0604		b	第1回科研費情報交換会ポスター	○	
0605		a	2021年度第5回歴史地理学科学科会議事録	●	
7. 学生支援 (NF0701)	0702	a	2022年度中部大学SPRING活動報告書	●	
	0702	b	2022年度日本語支援プログラム募集案内	○	
	0702	c	大学院進学者研修募集要項	○	
	0702	d	内モンゴル大留学生に対する授業実施に関する調整メール	○	
8. 教育研究等環境 (NF0801)	0802	a	中期予算調査票	○	
	0802	b	2022年度春学期指導教授一覧	○	
	0805	a	2022年度人文学部教授会議事	○	
	0806	a	2020年度第3回国際人間学研究科専攻主任連絡会議事録	○	
	0806	b	2021年度第3回国際人間学研究科専攻主任連絡会議事録	○	
	0806	c	2022年度第3回国際人間学研究科専攻主任連絡会議事録	○	
0806	d	教育研究に係る学部等重点事業計画案	○		
9. 社会連携・社会貢献 (NF0901)	0902	a	2022年度第4回歴史地理学科学科会議事録	●	
	0902	b	国際人間学研究所2022年度シンポジウム「持続可能な観光」ポスター	○	
	0902	c	国際人間学研究所2022年度シンポジウム「持続可能な観光」報告書目次	○	
	0902	d	歴史学・地理学専攻共催講演会_子孫が語る日米の懸け橋(GLOCAL21)	○	
11. 大学独自の評価項目 (NF1101)	1120	a	2022年度第2回国際人間学研究科専攻主任連絡会議事録	○	
	1120	b	国際人間学研究科委員会開催通知例	○	
	1120	c	国際人間学研究科専攻主任連絡会開催通知例	○	
	1120	d	2022年度国際人間学研究科委員会議事録	○	
	1120	e	2022年度国際人間学研究科専攻主任連絡会議事録	○	
	1120	f	心理学専攻会議事録例	○	
	1120	g	国際関係学専攻議事リスト(メール開催)例	○	
	1120	h	言語文化専攻主任・コース連絡担当によるメール連絡例	○	
	1120	i	2022年度第1回国際人間学研究科委員会議事録	○	

提出区分 … ○:本シートと一緒に提出する資料

●:提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△:現部署で保管